

1981年7月31日の皆既日食の旅行計画

中村幸夫

来年7月31日のソ連日食も、アフリカ、インド日食の成功の興奮さめやらぬというのに、もう10ヶ月後のこととなりました。この日食は日本の近くで起り、日本国内でも部分日食が見られるということで81年に入ってから最近のマスコミが天文の情報を多く取り上げていることから見ても、ソ連日食の記事が新聞紙上等を賑わすことと思われます。

しかし、ソ連国内をほぼ横切り樺太を通り、ハワイ沖で終る日食はいろいろな問題があるというのは周知の事実です。そこで、8月現在、具体的に計画の進んでいる旅行グループを紹介したいと思います。これは情報センターがキャッチしたものであるので、他にも計画があることをご存知の方はセンターまでお知らせ願いたいと思います。

これから紹介する旅行計画はそれぞれよい点、問題点もふくまれていると思いますので参加したいと思われる方は連絡先に詳しい様子を問い合わせさせて戴きたいと思います。

1. ソ連本土における観測計画

ソ連国内へ旅行する場合日食情報紙1にも書かれたようにすべて、宿泊、行程が計画通りということで変更ができない様です。また日本のアマチュアが最適地と考えているブラーツクは、ソビエト科学アカデミーでも、既に計画を立て、各国の観測団も多く入る様ですので宿泊地の確保が心配されます。

(実施計画)

① 日ソ旅行社「ソベリア皆既日食ツアー」

現在、まだ予告だそうです、既にインツーリスト(ソ連政府観光局)の方には連絡が通っているということで、「天文と気象」6月号「天文ガイド」9月号に予告を載せてある計画です。

日食の日合った定期便がないので、往復ともチャーター便だそうです。

期間 7月28日(火)～8月2日(火)……8日間

Aコース ハバロフスク(2泊)ーブラーツク(3泊) 観測地ーハバロフスク(2泊)

Bコース ハバロフスク(2泊)ーブラーツク(3泊) 観測地ーイルクーツク(2泊)

Aコース ¥255,000-

Bコース ¥295,000- } 全行程食事付 全コース飛行機利用

この日食情報が発行されているところには詳細が決定されるとのことです。

連絡先 日ソ旅行社(担当・石本)

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-1 パークアベニュービル

TEL (03) 404-1751~5

② 自主グループツアー

木村精二さんが中心になり、ソ連科学アカデミーにソ連の状況を問い合わせられて計画されているもので知人宅に主旨書を送ったものの抜粋です。訪ソ連団結成へのお誘い……ソ連科学アカデミーの日食委員会委員長V.A.Krat 教授から送ってきた手紙によると「皆既帯中のブラーツク地方で観測して欲しいとのこと、中心線での継続時間115秒、太陽高度4°、天候の条件はよいが晴天率は50%程度、わが国営旅行社に連絡して旅程等を決めて下さい。」ということで在京のインツーリストと連絡をとって検討した結果、主要天文施設の視察と合わせて皆既日食観測を主な目的とした訪ソ連の結成をいそぐことといたしました。この計画に御関心をお持ちでしたら次の旅程の概要に対してコメントをお寄せ下さい。……とのこと。

期 間 7月22日～8月2日ごろ 又は7月27日～8月12日ごろ

費 用 30～40万円台 観測地 ブラーツク

見学施設 (モスクワ、プラネタリウム、レニングラード、ブルコボ天文台、キエフ天文台、など)
エイジェント 未 定

木村精二さんはPSとして日食観測を最優先にお考えの方はこのソ連日食が天文学的、気象学的条件において劣っているのでは、1983年までお待ちになる方が適切ではないかと書いておられます。

2. 海上における観測計画

ソ連本土は晴天率が低いし、望遠鏡など持ち込みに制限があるのではないかとということから考え出された案で船を使って日食を見ようという計画です。ただ船の上での観測ですので観測目的及び観測方法が決められてしまいます。

(実施計画)

「豪華客船で日食を見ませんか」

星の家の清さんが中心になって計画されたツアーです。天文ガイド8月号に予定が載っていました。日本交通交社を通じて、ソ連船をチャーターして、レーダーを使用して晴天の所を捜すという考えで話を進めている様です。200人乗りの船ということなので、最低130人は集めたいとのこととまったく天文に興味がない人達にも参加して欲しいという考えだそうです。

期 日 7月28日～8月3日(苫小牧発着)

費 用 ￥158,000

連絡先 ① 星 の 家

TEL 02618-2-2566

② 日本交通公社 TEL 03-257-8461 (担当 中西・齊藤)

その他の情報によるとアメリカ人が日本観光を兼ねて日食観測を横浜から出発し船で行なうという計画が近畿日本ツーリストによって行なわれるそうです。又ある女子高校が団体で船により日食観測に行くという計画もあるそうです。

3. 飛行機による観測計画

以前もハワイ沖日食（1977年）で計画されたり、オーストラリア日食（1976年）で実施された方法で、高度一万メートルの空の上で日食観測をするために晴天確実で計画通り飛行すれば必ず太陽のコロナが見られる方法です。

ただ、日食の見られる側の座席をとって観測ということですから人数の関係から費用が高くなります。又、観測方法に制限が船以上にあります。

（実施計画）

（今度の日食は皆既時間も短かく、観測地にも問題がありそうで、晴天率、旅行条件もあまりよいとはいえません。ただ夏休み中ということで参加希望者も多いと思われます。情報をよく把握して計画に臨んで欲しいと思います。）